

WEEKLY SIGNAL

2019年8月30日(金) 1489号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/2(月)	9/3(火)	9/4(水)	9/5(木)	9/6(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 900	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	△ 32,000	△ 5,000	△ 57,000	+ 2,000	△ 7,000
資金需給	△ 31,100	△ 4,000	△ 57,000	+ 2,000	△ 7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(2年)		国債発行(10年) 税・保険揚げ 普通交付税交付金 交付税特会借入・償還		国債発行(30年) 交付税特会借入・償還
オペ期日	CP等買入 △ 100 共通担保資金供給 △ 2,300 社債等買入 △ 100 補完供給 + 300	成長基盤 △ 5,500	成長基盤 △ 100		
オペスタート	共通担保資金供給 + 2,200 国債買入 + 12,400	成長基盤 + 1,900	成長基盤 0		
(日本)		マネジャー・ベース(8月)	日銀黒田総裁、挨拶(FIN/SUM 2019) (6日まで) 日銀片岡審議委員、講演・会見(函館市)		
(海外)	欧 ユーロ圏製造業PMI(8月)	米 ホスト連銀総裁、講演 米 ISM製造業総合景況指数(8月)	米 NY連銀総裁、講演 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 ベージュブック 米 貿易収支(7月)	米 ADP雇用統計(8月) 米 ISM非製造業総合景況指数(8月)	米 雇用統計(8月) 欧 ユーロ圏GDP(2Q)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初403兆7,500億円から始まった。その後は国債買入オペを主に因に404兆1,600億円まで増加したものの、28日には財政等要因により減少し、週末には403兆6,500億円となった。

無担保コールON物は、週末にかけて軟調な地合となった。同加重平均金利は、26~28日の間、△0.047%~△0.041%のレンジで推移したものの、その後は月末を意識した動きにより調達サイドの調達意欲が低下し、30日には△0.061%となった。ターム物は1W~2W物を中心に、△0.040%~△0.030%の水準で出合が見られた。

国内債券市場で29日、長期金利の指標となる10年物国債の利回りが前日比0.010%低い△0.290%となった。△0.290%まで低下したのは2016年7月28日以来であり、約3年1か月ぶりの低水準となった。

来週の主な予定は、国内では3日に日銀黒田総裁のあいさつ(金融庁・日経共催のイベント「FIN/SUM 2019」)、6日に景気動向指数(7月)などがあり、海外では3日にISM製造業総合景況指数(8月)、6日には米雇用統計(8月)、米貿易収支(7月)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆7,800億円で、週間償還額(約1兆7,000億円)に対しほぼ横ばいとなり、マーケットは活況であった。先週末の市場発行残高(21兆8,036億円)に対して、相対案件の償還が多かったためか29日時点では約21兆5,200億円と減少した。8月末の発行残高は、21兆5,000億円程度と思われる。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。27日に、CP等買入入れオペが500億円増額され、3,000億円がオフアされた。結果は按分レート△0.001%・平均落札レート0.002%と、前回(按分△0.001%・平均落札△0.001%)比で平均落札レートが上昇した。

来週の償還総額(9/2~9/6)は、4,700億円程度となっている。月初めでもあり、5・10日発行以外は案件少なく落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、今週と変わらずマイナスから0%近辺の出合いとなろう。5日に、CP等買入入れオペが4,000億円程度オフアされる予定。オフア額の増加もあり、前回比レート低下を予想する。

<TDB>

昨週に続き世界的な債券需要の高まりから、TDB市場はより強含んだ。30日の3M854回債の入札結果は、最高落札利回り△0.1623%(前回債△0.1383%)、平均落札利回り△0.1731%(同△0.1463%)となり、入札後は△0.174%~△0.181%で取引された。セカンダリーでは、3M物が△0.17%~△0.15%程度、6M物が△0.27%~△0.255%程度、1Y物が△0.285%~△0.275%程度で出合いが見られた。また9月償還銘柄では、838回債(9/17償還)や840回債(9/24償還)が△0.11%~△0.105%程度で取引された。

<レポ>

足許GC取引は週を通して△0.08%~△0.09%での取引が中心。ただ週末には2年物国債とTDB3Mの発行が重なるも、資金調達ニーズが薄くレートが低下し△0.10台半ばの出合いも見られた。SC取引では2年402・403回債のbidが多く、2年404回債の発行前日には△0.20%台の出合いも見られた。他2年400・401回債、5年137・138・139・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355回債、20年164・165・166・167・168・169回債、30年59・62・63回債、40年9・10・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される場合があります。